

2. 縄文時代前期の土器について

森川4遺跡からは、縄文時代前期円筒土器下層a式およびd式が多く出土した。そのうち後者は典型的なものが多いが、前者は其中でも古い段階、あるいはさらに前段階に属すると考えられるものが多い。ここでは、円筒土器下層a式とその直前段階に相当する土器について触れたい。

1) 森川4遺跡における該期の土器の特徴

群a類および群b-1類に分類した土器の主な特徴は以下のとおりであった。

器形：いわゆるバケツ形、円筒形は少なく、口縁がやや外反し胴部がわずかにふくらみ底部がややすばまるものが多い。尖底あるいはそれに近い底部が6個体含まれている。口縁は4単位のきわめて緩やかな波状口縁が多い。胴部から口唇部に向かって器壁がやや薄くなり、口唇部は丸みを帯びる。また口縁下に明瞭な隆帯がみられるものはない。

文様：地文は単節縄文はわずかで、複節の斜行縄文が多量にある。撚糸文や条痕文、竹管状施文具による刺突がわずかにみられる。それ以外の文様はない。

胎土：章にも記載したが、A．繊維を多量に含み砂粒をあまり多く含まず明黄褐色を呈するものと、B．繊維を含み砂粒を多量含み暗赤褐色を呈するもの、とがある。尖底のものを含め古い段階の要素がみられるものはAが多い。

2) 該期土器の例

春日町式との比較

函館市春日町遺跡出土土器により設定された同型式は、平縁・尖底を基本とし、胎土に繊維を含み厚手でもろい。地文は結束羽状縄文がみられるが、多くは斜行縄文である。特徴は竹管状施文具による押引文が口縁部や底部に施されることである。森川4遺跡ではこれらの土器に直接相当するものはないが、尖底である点(M1・4・5)や竹管状施文具による文様がみられる(M15)点が類似する。

松前町白坂遺跡第3地点では春日町式が出土している。竹管状施文具による押引文が施文されているものが特徴的で、尖底(S1・2)、極小の平底(S3)、平底(S4)がある。森川4遺跡の資料には押引文が施されるものはないが、底部の器形はそれぞれ類似するものがある(S1-M1、S2-M4、S3-M6)。

松前町大津遺跡第2群は「春日町遺跡、早稲田貝塚のものと対比できるもの」、第3群は「円筒下層式の直前くらいに位置されるもの」である。第2群は基本的に尖底であるが、O1のような平底の土器もある。第3群について、口縁部が薄く撚糸文が施されるもの(O2)、地文の斜縄文に「ヘラ状のものでおしつけた感じの文様がつけられている」もの(O3)、複節縄文が施文された上げ底(O4)を例示した。森川4遺跡のM7・M8および章で示した底部に類似するものが多い。また未掲載の土器破片にもこれらの土器に類似するものが多く含まれている。この第3群の一部(O2など)が江差町榎川遺跡出土のものと類似することから、これらの一部の土器は「円筒土器下層式のはじめの方に入るのではないかと考え」られている。

深郷田式との比較

円筒土器下層a式の直前に位置づけられ、円筒土器の出現をたどる上で重要であるが、出土資料はあまり多くないようである。胎土に繊維を多く含み、口縁が少し外反し、平縁で平底の深鉢が基本である。文様は単節縄文・複節縄文・撚糸文を地文とし、特に付加条の縄文が施されることが特徴である。また内面に貝殻条痕が施されることも大きな特徴である。森川4遺跡の土器は、口縁部の形状などこれらの土器と器形が類似するものが多い。しかし付加条の縄文が施されたものは見られず、内面に条痕が一部調整痕のように残存するものがわずかにあるだけで、内外面ともに条痕があるものはM27のみである。

白座式との比較

青森県階上町白座遺跡では、円筒土器下層 a 式と大木 2 式の両方の影響を強く受けた土器として「白座式」が提唱された。器形は円筒形のみならず深鉢形が多く、胴部が膨らむものがあることが大きな特徴である。口縁部に葺瓦状撚糸文が集約されて施されるものが多く口唇上に刻みが見られるなど、円筒土器成立期の様相がよく現れているようである。中には不整撚糸文が胴部にまで施文されるなど、大木 2 式の影響を強く受けたものがある。森川 4 遺跡の土器には、胴部がわずかに膨らむものはあるが、直接的に影響を受けたものはないと思われる。

円筒土器下層 a 式との比較

そもそも、山内清男により設定された円筒土器下層 a 式の文様の特徴の概略は、次のようであった。口縁部の文様帯には不整撚糸文（結節回転文）が施されることが多く、頸部隆帯は少数例認められ、その場合は 1 条である。口唇に点列が施される。体部は斜行縄文が多いが、組紐回転文や無文の例もある。森川 4 の土器には、不整撚糸文が施されるものは少数有り、頸部隆帯が明瞭なものはない。しかし複節の斜行縄文が施され、尖底の土器群とはやや異なる胎土（上記 B）であるものは多く、器形が円筒形を示すものが少数ある。円筒土器下層 a 式そのものに相当するものが、少なからず含まれているとみられる。

函館市（旧南茅部町）八木 A 遺跡の例

縄文尖底土器群から円筒土器下層式への移行期の土器が、盛土遺構を主体に多量出土している。数点例示した。Y1・Y2 は深郷田式で、付加条の縄文（Y1）や内外面の貝殻条痕文（Y2）など典型的な文様がみられる。これらの要素は円筒土器下層 a 式直前（Y3）や円筒土器下層 a 式（Y6）にもつながるものである。Y3 は胴部がわずかに膨らみ底部がすばまり弱い上げ底になっており、外面に条痕や不整撚糸文がなく、円筒土器下層 a 式直前に比定されている。そして不整撚糸文が口縁部付近に集約される Y5 や頸部隆帯の発達した Y6 の円筒土器下層 a 式を例示した。そうした中に、Y4 のような胴部が膨らみ文様が口縁部に集約される、典型的な白座式が数多く出土している。

深郷田式や白座式など東北北部と密接に関係する土器や、噴火湾沿岸から影響を受けた土器がみられ、「円筒土器の成立を窺うには十分といえるだけの資料が出土して」いる。森川 4 遺跡ではこのように明確な特徴をもつものは少なく、むしろ円筒下層 a 式の範疇に収まるような土器群が多いように見受けられる。

3）森川 4 遺跡出土の該期土器の位置づけ

円筒土器下層 a 式およびその直前の土器について、明確な型式細分をすることが困難なため便宜上尖底のものを主体に 群 a 類、それ以外を 群 b - 1 類に区分して記述してきた。それらの土器群について、以上の各遺跡資料などから森川 4 遺跡の土器をふり返ると、次のように捉えられる。

春日町式に相当するものが少数存在する（尖底の一部、竹管状施文具を用いた土器の一部）

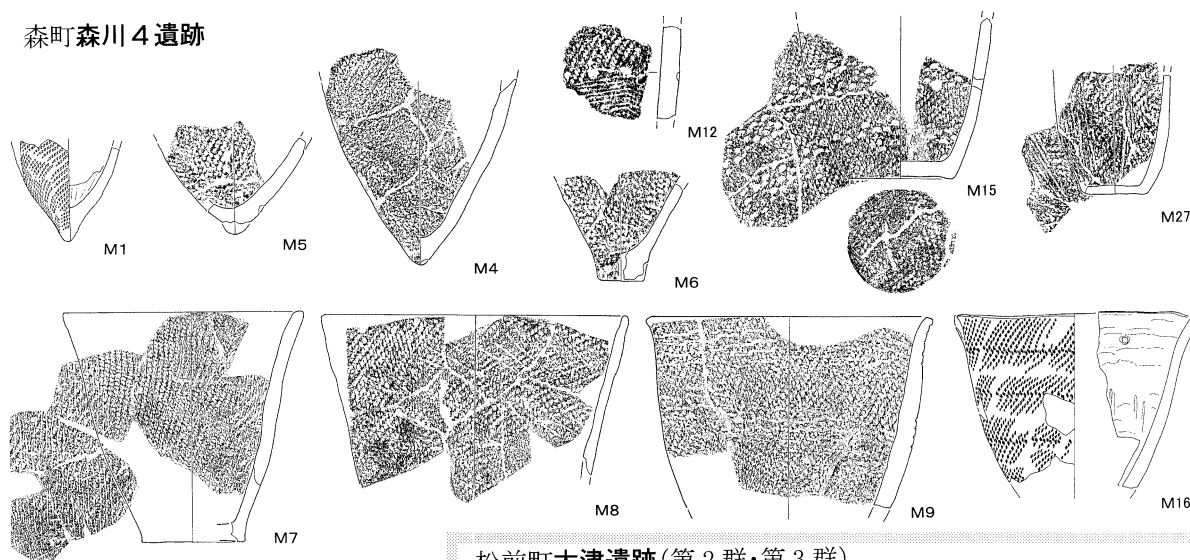
円筒下層式の直前段階に相当するものが大部分を占める

円筒土器下層 a 式に属するものが少なからず含まれる（ 章図 -6-30 ほか、破片多数）

尖底土器群から円筒土器の成立期について、渡島半島南東部と南西部での変遷過程に深郷田式や春日町式の影響の度合いで若干の差が認められる。渡島半島中部にあたる森川 4 遺跡においては、深郷田式や白座式の影響は少なく、例示した中では大津遺跡第 2 群の一部と第 3 群の大部分が類似している。今回例示しなかったが、函館市（旧戸井町）高屋敷川 遺跡から森川 4 遺跡出土土器に非常に類似した土器が多数出土している。噴火湾沿岸地域の該期の影響も含め、さらに検討を加えていく必要がある。

（阿部）

森町森川4遺跡

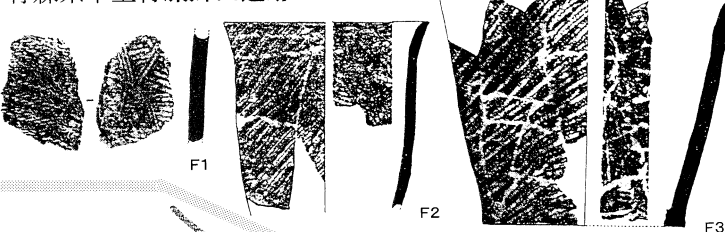


松前町大津遺跡(第2群・第3群)

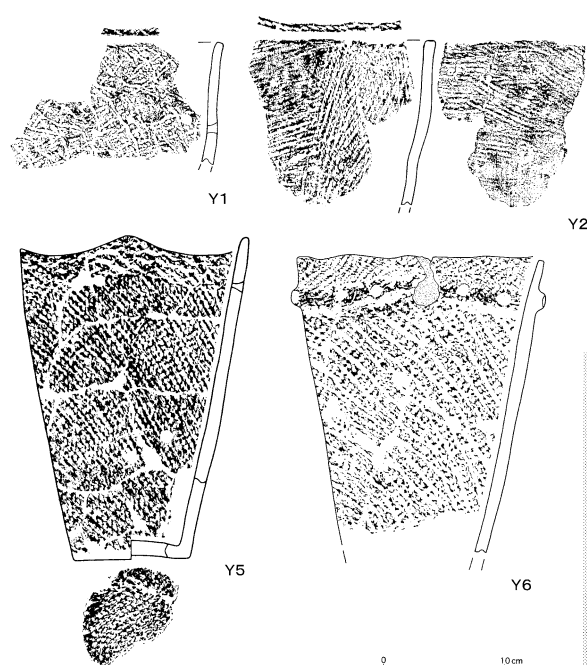
松前町白坂遺跡第3地点



青森県中里村深郷田遺跡



函館市(旧南茅部町)八木A遺跡



青森県階上町白座遺跡

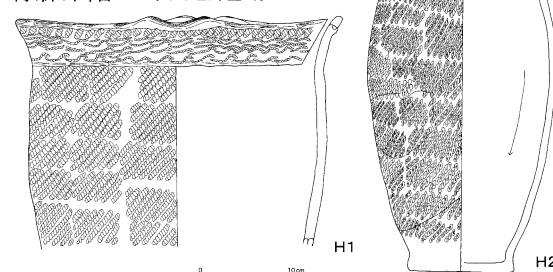


図 - 2 円筒土器下層 a 式およびその直前の土器

引用・参考文献

(1) 論文・報文等

- 鈴木克彦 1999 「北海道渡島・松山地域の中期末葉から後期初頭の編年」『北海道考古学』第35輯
吉崎昌一ほか 1979 『聖山 北海道亀田郡七飯町における縄文時代遺跡の調査』
北海道大学教養部人類学研究室 報告 1

(2) 単行本・資料集等

- 森町 1980 『森町史』
村越 潔 1984 『増補 円筒土器文化』雄山閣考古学選書10
南北海道考古学情報交換会 1995 『円筒土器下層式図録集』
鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣
海峡土器編年研究会 2003 『東北・北海道の十腰内 式再検討』

(3) 発掘調査報告書

- 松前町教育委員会 1974 『松前町大津遺跡発掘報告書』
松前町教育委員会 1983 『白坂』
知内町教育委員会 1972 『涌元遺跡』
函館市教育委員会 1979 『見晴町B遺跡発掘調査報告書』
函館市教育委員会 1981 『権現台場遺跡発掘調査報告書』
南茅部町教育委員会 1988 『白尻B遺跡vol. 』
南茅部町埋蔵文化財調査団 1993 『八木A遺跡 ハマナス野遺跡』
南茅部町埋蔵文化財調査団 1997 『八木A遺跡 八木C遺跡』
七飯町教育委員会 1979 『峠下聖山遺跡』
森町教育委員会 1975 『鳥崎遺跡』
八雲町教育委員会 1995 『栄浜1遺跡』
北海道第四紀研究会 1974 『西股』
北海道埋蔵文化財センター 1987 『函館市桔梗2遺跡』北埋調報46集
北海道埋蔵文化財センター 2002 『森町本内川右岸遺跡』北埋調報182集
北海道埋蔵文化財センター 2002 『森町濁川左岸遺跡 - B地区 - 』北埋調報190集
北海道埋蔵文化財センター 2002 『森町本茅部1遺跡』北埋調報191集
北海道埋蔵文化財センター 2003 『森町倉知川右岸遺跡』北埋調報196集
北海道埋蔵文化財センター 2003 『森町石倉2遺跡』北埋調報197集
北海道埋蔵文化財センター 2004 『森町濁川左岸遺跡 - A地区 - 』北埋調報208集
青森県階上町教育委員会 1988 『白座遺跡 野場遺跡(3) 発掘調査報告書』